

神奈川県立図書館の『雑誌創刊号コレクション』

中村 由美子

はじめに

神奈川県立図書館（以下「当館」という）の『雑誌創刊号コレクション』は、1967年10月に川崎市立産業文化会館で開催された「雑誌にみる明治百年展」が契機となり収集が開始された特別コレクションである¹⁾。当館の1960年前後は、図書館創生期の基礎作りがほぼ終わり、蔵書に特色を持たせようとする試みがなされた時期であり、『ベストセラーズ文庫』²⁾（1966年）、『ACC文庫』³⁾（1967年）などのコレクションも同時期に誕生している。

『創刊号コレクション』は新聞雑誌室の書庫に収められ、出納によって閲覧できるが、利用者の目に触れることは少ないため、その存在は一般にはあまり知られていない。創刊号には、その時代の世相が反映されていると思われる。今回、世相と雑誌刊行の流れに沿ってこのコレクションについて取り上げ、紹介してみたい。

1 雑誌創刊号コレクションの概要

1.1 『雑誌創刊号コレクション』設立のいきさつ

前述したように、このコレクションは、1967年10月に川崎市産業文化会館で開催された「雑誌にみる明治百年展」を契機として設立された。この展示会については、当館の『昭和42年度事業概要』に記述があるので引用する⁴⁾。

雑誌にみる明治百年展

期日 1967年10月28日（土）～11月3日（金）6日間

（ただし30日（月）は会場休館のため休場）

主催 神奈川県立図書館・神奈川県図書館協会・川崎市教育委員会

後援 国立国会図書館・日本近代文学館

協賛 神奈川新聞社

会場 川崎市立産業文化会館 4階美術展示室

入場者数 1,629名

展示品 本館および県内公共図書館、県内の個人蒐集家のものをはじめ、県外では国立国会図書館、日本近代文学館および文芸春秋、講談社、新潮社、主婦の友社の各出版社より借用の雑誌、月刊誌 888冊、週刊誌 61冊の創刊号を主にその他参考資料 29点を展示。

雑誌にみる明治百年展出陳目録

(中略)

記念講演

期日 1967年10月29日(日)

会場 神奈川県立川崎図書館、2階ホール

講師 立教大学教授、日本近代文学館専務理事 小田切進氏

演題 「雑誌と日本近代文芸」

会場で配布した『雑誌にみる明治百年展出陳目録』の序文は伊藤整氏、開催期間中の10月29日(日)に県立川崎図書館2階ホールで行われた記念講演の講師は、立教大学教授・日本近代文学館専務理事の小田切進氏で、演題は「雑誌と日本近代文芸」であった(肩書は当時のもの)。

これを見ると、まだ雑誌創刊号のコレクションがなかったため、様々な方面から創刊号を借用して開催していること、また川崎市の会場を借りて開催したことも含めて、かなり大がかりな展覧会であったことがわかる。

この展覧会の行われた年に『雑誌創刊号コレクション』が設立され、次年度の1968年には収集点数44点、1969年には59点、1970年76点、1971年70点となっている。この頃が年間の収集点数が多く、収集に力を入れた時期であったと思われる。当時は、書店に雑誌の創刊号を見計らいで持ってきてもらい選定していたとのことで、購入の数も多いため、雑誌から当

時の世相を概観するのにふさわしい姿であったといえよう。

ちなみに、当館のホームページの蔵書検索（OPAC）でヒットするのは所蔵雑誌であり、創刊号コレクションではない。創刊号を所蔵していても、それに続く号を継続して受け入れた場合は所蔵雑誌の扱いとなり、創刊号コレクションには含まれない。あくまで創刊号1冊のみを収集した場合に、コレクションとして登録される。当館に寄贈雑誌としてご恵贈いただいた場合も、継続してまとまった量を受け入れた場合は所蔵雑誌として扱われる。そのため創刊号コレクションとはいえ、時代ごとに完全に揃えるのは難しく、当館の収集範囲の雑誌は創刊号コレクションにはあまり含まれていないという実態となっている。

1.2 時代別内訳

コレクションの概要については、神奈川県立の図書館のホームページのトップから“県立図書館”→“資料紹介・情報誌”→“コレクションの紹介”をたどって見ることができ、リストも公開されているので、そちらもご覧いただきたい⁵⁾。

コレクションの総数は1870（明治3）年から2011年3月31日現在まで1,572タイトルである。時代ごとのタイトル数では、やはり60年以上続いた昭和時代が突出して多い。ホームページのコレクション紹介欄にも記されているように、1925～1935（昭和元年～昭和10）年126タイトル、1941～1950（昭和16年～昭和25）年154タイトル、この二つの時期の創刊号が特に多く、太平洋戦争という大きな戦争が起こった昭和という時代を知るための重要な手掛かりとなるものと思われる。時代ごとに区切って数えてみると、明治3タイトル、大正20タイトル、昭和初期（1927年～1945年）215タイトル、昭和中期（1946年～1965年）131タイトル、昭和後期（1966年～1989年）725タイトル、平成（1990年～2011年）478タイトルとなる（図1）。1967年にコレクションが設立されてからは積極的に収集をすすめてきたが、1977年頃から予算削減により収集がままならない状況が続き、新規の受け入れは寄贈に頼る状況となり、現在に至っている。

1.3 分類、配架方法

分類は、創刊年（西暦）と創刊月によっており、配架方法もそれにならい、創刊年月の順となっている。装備については、創刊当時の装幀を残すため、ラベル等は最小限にとどめている。また、古い資料は中性紙の保存箱に入れて、保存状態にも気を配っている。配架場所は新館3階、新聞・雑誌室の書庫である。また、年代順とタイトルの五十音順による冊子体目録を作成している。

2008	創刊年
11	創刊月
ラベル例	

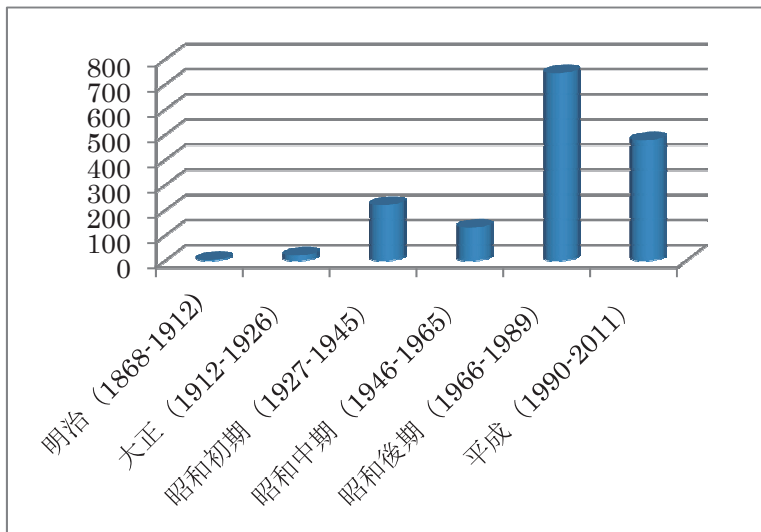


図1 雑誌創刊号コレクション 年代別所蔵タイトル数

1.4 選定方法

創刊号コレクションの設立当時の選定方法については、資料がなく詳細については不明である。ただ、購入雑誌の選定よりも収集範囲は幅広く、やや大衆的な雑誌や娯楽雑誌もその時代を反映するものとして収集していたようである。

予算については、当時の予算書を見ても雑誌費の中の創刊号の予算の割

合までは不明である。コレクション設立当初は、「閲覧用図書雑誌類」約100万円の項目の中から支出していたようである。1972年の予算書に、唯一、「閲覧用新聞雑誌費」120万円の中に“雑誌創刊号”の項目があり、予算30,000円となっている⁶⁾。購入予算がつかなくなった1977年頃からは創刊号の中からこれはという雑誌をピックアップし、寄贈者を募るということも検討していたようである。

現在、創刊号を収集するための予算の枠はないため、ここ数年は創刊号コレクションの受け入れは、寄贈されたものが中心となっている。

2 明治時代

我が国の雑誌の起源は、1867（慶応3）年の『西洋雑誌』であるといわれている⁷⁾（図2）。柳河春三の編纂によるものである。総合雑誌の草分けとしては、1874（明治7）年に創刊された『明六雑誌』（図3）がある。この時代の雑誌は論説、評論、研究等を内容とするものが多く、論説が活発なため政治的に問題となることが多く、『西洋雑誌』は1869（明治2）年に、『明六雑誌』は1875（明治8）年に廃刊となった。

当館には『西洋雑誌』[請求記号：Z230.1/6]、『明六雑誌』[請求記号：Z051/103]（復刻版）ともに創刊号の所蔵がある。ただし両タイトルともに創刊号コレクションではなく、所蔵雑誌として新館書庫に収蔵されている。

このほか、明治期発行の主な雑誌に『女學雑誌』（創刊1885（明治18）年）、『國民の友』（創刊1887（明治20）年）、『風俗画報』（創刊1889（明治22）年）があるが、当館の所蔵はいずれも複製版あるいは翻刻版であり、創刊号コレクションには含まれていない。

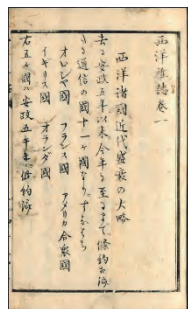


図2 西洋雑誌

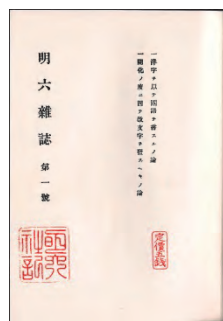


図3 『明六雑誌』

当館の創刊号コレクションのうち、明治時代の発行のものは少ないが、特筆すべきは『反省會雑誌』であろう。

『反省會雑誌』創刊 1887（明治 20）年 8 月 反省會本部〔請求記号：1887/8〕（図 4）



（当館の所蔵は中央公論社創業 90 年記念として 1975 年 10 月に復刻されたもの）

現在も発行が続いている総合雑誌『中央公論』の前身である。創刊当時は京都の本願寺で経営する普通教学校の学生たちが発刊、「発刊の意図は墮落した宗教界に警鐘を鳴らし、“禁酒進徳”をすすめるものだった」という⁸⁾。1892（明治 25）年に『反省雑誌』と改題、1899（明治 32）年 1 月に

図 4 『反省會雑誌』 『中央公論』に改題した。

1941 年に廃刊したが、その後復刊し、現在では日本の総合雑誌の中心に位置する月刊誌として、2012 年 11 月号で 1548 号を数えるまでとなっている。

3 大正時代

1914（大正 3）年に第一次世界大戦がはじまり、日本も日英同盟を理由に参戦した。この戦争は日本に大戦景気をもたらし、国内で繊維業、造船業などの工業が発達した。大戦後、日本は中国への影響を強めていった。ロシアではロシア革命が起こり、世界情勢に大きな影響を与えた。国内では、米騒動が起こり、社会主義運動が高まり、民本主義や女性の地位向上など、いわゆる大正デモクラシーと呼ばれる動きが起こった。

雑誌界は商業化が進み、『主婦之友』（復刻版）などの婦人雑誌、『新青年』（復刻版）などの文学誌のほか、『文藝春秋』（復刻版）、『現代』（創刊 1920（大正 9）年 10 月）などの総合誌が創刊されている。その他、未所蔵ではあるが、『婦人公論』、大衆誌『キング』、週刊誌では『旬刊朝日』『サンデー毎日』等が創刊されている。

『主婦之友』創刊 1917(大正6)年3月 東京家政研究會 [請求記号 17/3]
(図5)(当館の所蔵は主婦の友社創業 80 年記念として 1996 年 9 月に復刻



図5 『主婦之友』

されたもの)

創業者石川武美のきびしい編集方針のもとで、実用的な婦人雑誌として作られ、読者の投稿なども取り入れた親しみやすい内容であった。時代の変遷とともにその時代の家庭生活を反映した編集で、現代まで発行が続けられたが、2008 年に廃刊となった。

『文藝春秋』創刊 1923 (大正 12) 年 1 月 菊池寛発行編輯兼印刷人
文藝春秋社(発行)春陽堂(発売) [請求記号: 23/1] (図6)(当館所蔵は文藝春秋創刊 500 号記念として昭和 30 年に復刻されたもの)

創刊号はB6判、わずか 28 ページの小冊子であった。当時すでに小説家として売れっ子だった⁹⁾ 菊池寛の創刊の辞には、「私は頼まれて物を云ふことに飽いた。自分で、考えてゐることを、読者や編輯者に氣兼ねしに、



図6 『文藝春秋』

自由な心持で云つてみたい。友人にも私と同感の人々が多いだらう。又、私を知つてゐる若い人達には、物がいひたくて、ウヅウヅしてゐる人が多い。一には、自分のため、一には他のため、この小雑誌を出すことにした。」とある。この号には、菊池寛のほか芥川龍之介、今東光、川端康成、横光利一等がエッセイを寄稿した。戦中に廃刊となったが、昭和 20 年に復刊した。日本の総合雑誌の代表格として発行が続けられ、2012 年 11 月号で第 90 巻 14 号となる。

4 昭和時代

4.1 1926～1945（昭和元～昭和20）年まで

1931年に満州事変が起こり、関東軍が奉天を占領し、翌年1932年に満州国が建国される。1937年、盧溝橋で日本と中国が衝突し、日中戦争が始まる。時局が戦争へと進み、創刊雑誌も影響を受け、『愛国』（創刊1927年）、『国策』『国民防空』（創刊1929年）など勇ましいタイトルの雑誌がある。一方でプロレタリア雑誌も『労働派』（創刊1930年）、『プロレタリア科学研究』（創刊1931年）などが創刊された。スポーツ雑誌の出現も特筆すべきことである。当館では『角道』（創刊1930年）、『運動画報』（創刊1931年）、『スポーツ画報』（創刊1931年）、『山とスキー』（創刊1931年）などの所蔵がある。

戦局が進むにつれて国防体制の強化が進み、1924年、「国家総動員法」が成立する。新聞・雑誌・書籍発行に欠かせない印刷用紙は供給不足により制限がかけられるようになる。1940年になると、用紙の供給を「弘報宣伝政策」に沿って配給等により制限するようになり、当局は、出版物の内容についても統制するようになる¹⁰⁾。1941年1月、国家総動員法に基づく「新聞紙等掲載制限令」を公布、12月に米英軍との戦闘状態に入ると、「言論、出版、集会、結社等臨時取締法」を公布し、言論統制を強化していった¹¹⁾。多くの雑誌が廃刊・統合され、『中央公論』、『改造』（創刊号未所蔵）も廃刊となった。

たとえば、1940年一年間における新聞・雑誌創廃刊数を見ると、創刊の点数653点に対して、廃刊の点数3,415点にも及ぶという¹²⁾。

この時期の創刊号には、『満蒙事報』（創刊1932年12月）、『大陸』（創刊1938年6月）、『新評論』（創刊1936年3月）、『国民防空』（創刊1939年7月）、『新亜細亜』（創刊1939年8月）、『東亜解放』（創刊1939年8月）などがある。

『満蒙事報』 創刊 1932 年 12 月 満蒙事報社 [請求記号：32/12]

(図 7)



図 7 『満蒙事報』

満州国の建国を受けて、日本国と共存共栄であるために、日本国民が満州の事情に無関心であってはならないとの観点から、「満州の事情」を国民に認識させることが重要である、と巻頭の“本誌発刊の使命”にある。記事内容は、貴族院議員の徳富蘇峰の「前途の国策を思ふ」、を始め、総理大臣齋藤實ほか外務大臣、陸軍大臣が寄稿し、“認識せよ満蒙事情”の項では「満州の政治組織」「満州の財政問題」「満州は美人の國」などの記事がある。

『大陸』 創刊 1938 年 6 月 改造社 [請求記号：38/6] (図 8)

日中戦争の開始を受け、「新しい大陸日本をつくる」との気概を持って



図 8 『大陸』

創刊された総合誌。発行所は『改造』の改造社、編集長は山本實彦。「創刊につき」では、「雑誌『大陸』はわれわれ同胞の大陸発展の唯一の燈明たる考（かんがえ）を持って進みたいのです。」¹³⁾と述べている。記事はグラビアトップに満蒙開拓の青少年移民隊の写真、殷同の「華北経済建設の道」、「特集 世界変革の舞台に躍る巨人像」。小説は横光利一の「王宮」のほかに茅盾の長編小説「上海の真夜中」が掲載されていることが特徴的である。

4.2 1946～1965（昭和21～昭和40）年まで

終戦後、日本はアメリカの占領下に入る。食糧、生活物資の不足する中、GHQの主導する民主化路線が進み、1947年5月には新しい日本国憲法が施行された。1951年、サンフランシスコ講和会議・対日講和条約に49カ国が調印、4月には日米安保条約が発効した。1945年の終戦直後から1946年にかけて、新しい雑誌が創刊され、また戦争中に廃刊となっていた雑誌は、多くが復刊された¹⁴⁾。

1948年から1949年にかけて、カストリ雑誌（米やイモから急造した粗悪な密造酒、カストリを三合も飲めば酔いつぶれてしまうことから、3号で廃刊となってしまうような低俗な雑誌をこう呼んだ¹⁵⁾）の流行が起こった。いわゆる大衆娯楽雑誌であるが、その内容は、エロ・グロもの、人情もの、講談もの、犯罪・猟奇もの、性・恋愛・夫婦ものなどであった。1955年前後（昭和30年代）になると、それらの通俗的な記事は、ブームとなった週刊誌の中に吸収された¹⁶⁾。

1956年の『経済白書』には、“もはや戦後ではない”と記され、敗戦からの経済復興はこの年代に入り区切りを迎えた。「政治が安定し、人々の暮らしも向上し、豊かな生活を楽しむ文化的土壌が生まれ始めた」といえる¹⁷⁾。1960年には、日米安保条約が改定されたが、これにはデモを伴う反対闘争も起こり、国会でも激しい論議が行われた。日本は高度成長期に入り、鉄道網・道路網が整備され、首都圏への人口集中が起こってきた。この頃から週刊誌が次々と創刊された。創刊号コレクションでは『週刊セブンティーン』（創刊1968年6月11日）、『朝日ジャーナル』（創刊1959年3月15日）このほか未所蔵ではあるが、『週刊新潮』（創刊1956年）、『週刊明星』（創刊1958年）、『女性自身』（創刊1958年）、男性向けでは『平凡パンチ』（創刊1964年）が斬新なイメージで人気を博した。

『世界』 創刊1946年1月 岩波書店〔請求記号：46/1〕（図9）

太平洋戦争終戦の翌年1月に創刊され、創刊号は、安倍能成、美濃部達吉、大内兵衛、和辻哲郎らによる論評の他に、志賀直哉、里見弴の創作を



図9 『世界』

掲載し、他の執筆陣も錚々たるメンバーで、創刊の意気込みが感じられる内容である。「日本の社会の現実に触れてこれを指導する総合雑誌の発刊」という位置づけであった。わが国の思想界をリードする“知の権威”という雰囲気を持った雑誌である。2012年11月号で第836号を数える。

『群像』創刊 1946 (昭和 21) 年 10 月 大日本雄弁会講談社 [請求記号 : 46/10] (図 10)



図 10 『群像』

表紙に梅原龍三郎、口絵にセザンヌの絵を配置し、誌面に素描を挿入するなど芸術的な香りのする創刊号である。巻頭に佐藤春夫の詩、日夏耿之介の評論を置き、正宗白鳥らの小説の他に詩、歌、俳句を配置し、「『群像』は編輯の主力を創作欄に注ぐ」(巻末の「編集手帖」という意気込みを示したものとなっている。

この雑誌も現在に至るまで講談社から発行が続けられ、2012年11月号で67巻11号となる。

『リーダーズ・ダイジェスト』創刊 1946 年 6 月 リーダーズ・ダイジェスト日本支社 [請求記号 : Z053/2] [請求記号 : 46/6] (図 11) (創刊号コレクションとともに、雑誌としても所蔵、また『大衆雑誌創刊号セット』にも所蔵がある)

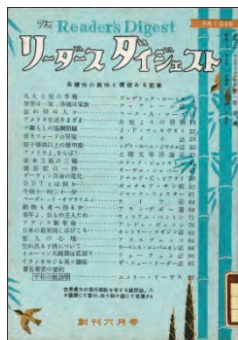


図 11 『リーダーズ・ダイジェスト』

創刊当時の誌名はリーダーズ・ダイジェスト。アメリカで発行され、当時、世界8カ国語・40以上の国で発売されていた雑誌の日本版である。編集長は朝日新聞社から鈴木文四郎が就任した。「創刊の言

葉」には、誌名のいわれは、「読者（リーダース）のために、多くの材料を消化（ダイジェスト）して、エッセンスを探る」であり、アメリカで発行される6千種の雑誌を始め、世界中の雑誌・刊行物の中から、「永続する価値と興味ある記事、書物を精選し、原文の意味や味を損せず要約するのが本誌の本領である」と述べている。「日本で最初の、日本語の外国雑誌」とあって、創刊号発売当時は大変な人気があったという。

『朝日ジャーナル』創刊 1959年3月15日 朝日新聞社 [請求記号：59/3] (図12)



週刊誌ではあるが、表紙に「報道 解説 評論」とうたっているとおりの、硬派なイメージであった。初代編集長は和田斉。1984年まで発行が続けられた。1984年4月6日号で刊行終了となる。筑紫哲也が編集長を務めていたのは有名である。この後『Asahi Journal』として発行が続けられたが、1992年6月

図12 『朝日ジャーナル』 30日号で休刊となった。

『太陽』創刊 1963年7月 平凡社 [請求記号：63/6] (図13)



平凡社のHPによると¹⁸⁾、“日本初の本格的グラフィック月刊誌”とある。A4版でカラー写真を多用し、“特集エスキモー 太陽は極北に近づく”、“ヨーデルが呼ぶアルプスの谷間”など視野の広い編集方針となっている。

刊行は38巻12号No.482まで続けられ、2000年に休刊となった。現在は『別冊太陽』の刊行が続けられている。

図13 『太陽』

4.3 1966～1988（昭和41～昭和63）年まで

1966年あたりから日本の経済は好調で、経済成長率が著しく、その反面、

各地で公害が社会問題となった。カラーテレビが登場し、家電製品も普及してきた。1972年には沖縄が日本へ返還され、9月には日本と中国の国交が正常化された。1973年には第四次中東戦争が起り、石油の生産削減、いわゆる石油ショックが起こった。

雑誌では、グラビア雑誌が出現してきた。特に女性雑誌に著しく、『an・an（アンアン）』（創刊1970年3月）、『non-no（ノンノ）』（創刊1971年6月）、『JJ（ジェイ・ジェイ）』（創刊1975年6月）などが次々と創刊された。特に『an・an（アンアン）』『non-no（ノンノ）』は、“アンノン族”という言葉が生まれたほど、女子大生を中心として広く女性に愛読された。男性雑誌では、『PENTHOUSE（ペントハウス）』（創刊1983年5月）、『プレイボーイ』日本語版（創刊1975年7月、創刊号の所蔵なし）、などが女性のグラビア写真を掲載して部数を伸ばした。一方、ファッション雑誌では、『ポパイ』（創刊1976年6月）、『ホットドッグ・プレス』（創刊1979年）（ともに当館の所蔵なし）などがある。

ミニコミ誌から出発した『ぴあ』（創刊1972年）はシティ・ガイドの雑誌として若者を中心に人気を博した。週刊誌は、『週刊ポスト』（創刊1959年8月22日）が創刊された。一方、『FOCUS（フォーカス）』（創刊1981年10月30日）は、写真週刊誌の先駆けとなり、この後、スクープ写真やゴシップを掲載する写真週刊誌がブームとなった¹⁹⁾。1980年代後半になると、バブル景気といわれた時期に入る。首都圏の土地の価格は高騰し、円高による海外旅行者も増加した。

『週刊ポスト』創刊1969（昭和44）年8月22日 小学館 [請求記号：69/8]
 (図14)

出版社系の週刊誌では、後発であるといえる。『週刊現代』（講談社）と記事の傾向が似通っていることからライバルとされる。創刊号の記事は、「特別インタビュー・フォード会長、日本市場征服戦略を語る（フォード会長が初めて語った日本上陸戦略）」など。



図 14 『週刊ポスト』

果敢な編集方針とキャンペーン主義、スキャンダリズム志向により、創刊 10 年にして総合週刊誌 トップの座に君臨した²⁰⁾。

『an・an (アンアン)』創刊 1970 年 3 月 平凡出版 [請求記号: 70/3]



図 15 『an・an (アンアン)』

(図 15)

創刊号は『ELLE JAPON (エル・ジャポン)』として発行され、在日フランス大使とエル社長がメッセージを寄せている。オールグラビアの雑誌の先駆けであるといえよう。トップ記事はパリ、ロンドンの現地レポートであった。

『non-no (ノンノ)』創刊 1971 年 6 月 集英社 [請求記



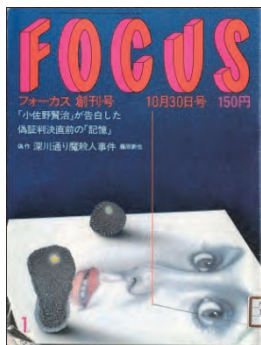
図 16 『non-no (ノンノ)』

号: 71/6] (図 16)

『an・an』に比べると読者対象はおとなしめの印象を受ける雑誌である。「愛のあるファッションナブル・マガジン！」と表紙にうたっている。

親しみやすいファッションと記事で『an・an』とともに人気を博した。

『FOCUS (フォーカス)』創刊 1981 年 10 月 30 日 新潮社



[請求記号：81/10] (図 17)

グラビア写真を中心に紙面を構成する初めての写真週刊誌。発行は新聞社からではなく、新潮社であった。記事は、「最後の政商『豪邸の日々』『小佐野賢治』偽証判決直前の告白」、「連載 東京漂流 藤原新也」など。

図 17 『FOCUS (フォーカス)』

5 1989 (平成元) 年から現在まで

平成に入ってもまもなく、いわゆるバブルの崩壊が起こり、経済不況に陥った。出版業界も不況となり、書籍の販売が不調であり、雑誌も影響を受ける。1989年、ドイツでベルリンの壁が崩壊し、東西ドイツが統一された。1991年には湾岸戦争が始まり、ソ連邦の崩壊という歴史に残る事件が起きた。国内では1995年は、阪神・淡路大震災、地下鉄サリン事件が起こるといふ大変な年であった。この年にパーソナル・コンピュータのOS、Microsoft Windows95が発売され、パソコンの普及に大きな影響を与えた。2001年にはアメリカの旅客機がハイジャックされ、ニューヨークの世界貿易センタービルに突入、いわゆる9.11テロが起こった。これを受けて米英軍がイラクを攻撃し、イラク戦争が勃発した。日本ではこの後、小泉政権による郵政民営化があり、自民党首相が短期交代を繰り返したのちに、民主党政権が誕生する。2011年3月には東北地方太平洋沖地震と、地震・津波による多数の死者(東日本大震災)、福島原子力発電所の原発事故という未曾有の災害が起き、日本は大きな打撃を受けた。

出版界は日本経済の停滞により売上げ不振が続く、書籍の販売を始め、雑誌についても売り上げが低迷しており、現在に至る。一方電子書籍の出現は、日本の出版業界の生産、流通を変化させる兆しがあり、今後の動向

が注目されている。

『NATIONAL GEOGRAPHIC (ナショナル ジオグラフィック日本版)』創刊



1995年4月 日経ナショナル ジオグラフィック社 [請求記号:95/4] (図18)

アメリカで100年以上の歴史を持つ『NATIONAL GEOGRAPHIC』の初めての国際版で、米国版を忠実に再現し、同時発売であるという。写真の美しさは定評があるが、写真、記事、編集、印刷すべての質を重視し、地理の雑誌であるが、地球上のすべての事物、世界の人々が対象であるとしている²¹⁾。特集記事は「消えゆくコアラの楽園」、付録は世界地震地図(英文)。

図18 『NATIONAL GEOGRAPHIC (ナショナル ジオグラフィック日本版)』

『日経 WinPC』創刊 1995年5月 日経BP社 [請求記号:95/4] (図19)



Windows パソコンの活用誌。特集は「眠れるWindowsをたたき起こせ!」「いま買うならこれ!ゼッタイおすすめデスクトップ10機種」。この年にwindows95が発表され、パソコンの驚異的な普及につながったことを考えると、この時期に発行されたのは良いタイミングであるといえる。

図19 『日経 WinPC』

『Mac Fan Beginners』創刊 1995年8月 毎日コミュニケーションズ [請求記号:95/8] (図20)



図 20 『Mac Fan Beginners』

Apple 社のパソコン、マッキントッシュ・ユーザーのための初心者向け雑誌。特集「Mac はここがおもしろい」「Mac 購入パーフェクトガイド」の他に、「Mac history for the rest of us(私たちの Mac ヒストリー)」と題する Mac の歴史(連載)があり、興味深い。

『VOGUE NIPPON』創刊 1999 年 9 月 日経コンデナスト [請求記号:

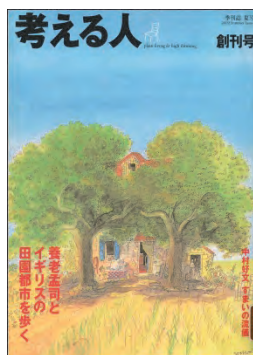


99/9] (図 21)

アメリカで 100 年以上の歴史を持ち、11 の海外版を持つ『VOGUE』の日本版である。冒頭の“編集長から読者の皆さまへ”では、「(雑誌の) 背景にその国の文化や価値観がしっかりと存在しているということ」が重要であるとしている²²⁾。特集は「『ヴォーグ』107 年の華麗なる伝説」、「未来世紀ニッポン」。

図 21 『VOGUE NIPPON』

『考える人』創刊 2002 年 8 月 新潮社 [請求記号: 2002/8] (図 22)



創刊号には、雑誌のコンセプトや編集方針はあまり掲載されていない。『雑誌新聞総かたろぐ 2012 年版』によると、『『シンプルな暮らし、自分の頭で考える力』をキーワードに、モノや情報に溢れた生活から一旦距離を置き、自らの頭で考えるための手掛かりとなるような、人・生活・自然・芸術・文学等、様々な分野の記事を収載。』とある²³⁾。

図 22 『考える人』

『g²』(G 2、ジーツー)創刊 2009 年 9 月 講談社 [請求記号:2009/9] (図



23)

月刊『現代』休刊を受けて新たに創刊された後継誌。創刊号の編集長の言葉によると、「G 2 (ジーツー) は雑誌・単行本・ネットが三位一体となったノンフィクション機軸メディアを目指します。」とある。新機軸というのは、雑誌単体にとどまらず、最終的に単行本を目指しているからだという。また、紙媒体の雑誌のみではなく、ネット

でも記事を全文無料公開(会員登録が必要)し、紙媒体、ネットのユーザーが相互に閲覧することによって相乗効果を狙うとしている²⁴⁾。

おわりに

今回、この稿を書くにあたり、東京都立図書館の雑誌創刊号コレクション(ホームページで全部のリストが公開されていないので、全貌は不明)、新潟県立図書館創刊号コレクション、大宅壮一文庫創刊号コレクション等を比べてみたが、収録タイトルがあまり重複していないのが印象的であった。その時代ごとの定評ある雑誌があっても、発行から年月が過ぎてしまうと収集しにくくなってしまふ。予算を確保し、発行されると同時に収集していかないと、充実したコレクションは難しいと実感した。雑誌業界は売れ行きが厳しいということだが、2010年には121点、2011年には138点の雑誌が創刊されている²⁵⁾。創刊号コレクションを当館のコレクションの一つに位置付けているのであれば、さらに力を注いで収集していかねばならない。

また、1.1で述べたように、当館の場合、創刊号コレクション以外にも、創刊号から引き続き継続して所蔵している雑誌は、通常の雑誌と同様に書庫に収蔵されている。中には『西洋雑誌』のような貴重なものもあった。さらに、復刻版で所蔵しているもの、また、図書扱いで所蔵しているもの、

例えば『大衆雑誌創刊号セット』²⁶⁾、などがある。これらの雑誌の創刊号についても、何らかの形でデータを作り、閲覧しやすいようにすべきである。

注、引用・参考文献

- 1) 神奈川県立図書館・音楽堂 20 年史. 神奈川県立図書館・音楽堂, 1974, p. 18-19.
- 2) 1966 年 10 月「明治・大正・昭和 本のベストセラーズ展」を開催、この時に収集・出品した明治以降のベストセラーズを主体にして設立されたコレクション。現在に至るまで毎年収集が続けられている。選定基準は、出版ニュース社調査による年間全国ベストセラーズ 20 点を基にしている。
神奈川県立図書館・音楽堂 30 年のあゆみ. 神奈川県立図書館・文化資料館・音楽堂, 1984, p. 20.
- 3) 1967 年 3 月、横浜アメリカ文化センターの閉鎖にともない、同センターからその蔵書（洋書・和書約一万冊等）や関連備品の寄贈を受け、特殊文庫としたもの。コレクションの名称は、横浜アメリカ文化センターの英語名のイニシャルから「ACC 文庫」とした。
神奈川県立図書館・音楽堂 30 年のあゆみ. 神奈川県立図書館・文化資料館・音楽堂, 1984, p. 20, p. 30.
- 4) 事業概要 昭和 42 年度. 神奈川県立図書館, (1968), p. 54-55.
- 5) <http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/yokohama/materials/collection.htm>
(参照 2012-10-16) .
- 6) 歳入歳出予算内訳書. 神奈川県立図書館, 1973, p. 11. p46.
- 7) 日本雑誌協会史 第一部大正・昭和前期編集委員会. 日本雑誌協会史 第一部大正・昭和前期. 日本雑誌協会, 1968, p. 3.
- 8) 塩澤実信. 雑誌百年の歩み 1874-1990. グリーンアロー出版社, 1994, p. 13-14.
- 9) 山崎安雄. 日本雑誌物語. アジア出版社, 1959, p. 268.
- 10) 日本雑誌協会史 第二部戦中・戦後期編集委員会. 日本雑誌協会史 第二部戦中・戦後期. 日本雑誌協会, 1969, p. 55.
- 11) 前掲 10) p. 68.

- 12) 高崎隆治. 戦時下の雑誌-その光と影. 風媒社, 1976, p. 39.
- 13) 大陸. 創刊号. 1924. 6, p. 18-19.
- 14) 福島鑄郎. 戦後雑誌発掘. 洋泉社, 1985, p. 597-631.
- 15) 日本国語大辞典第二版編集委員会 小学館国語辞典編集部. 日本国語大辞典. 第二版, 小学館, 2001, p. 644.
- 16) 福島鑄郎. 雑誌で見る戦後史. 大月書店, 1987, p. 90-95.
- 17) 神田文人/小林英夫. 戦後史年表 1945-2005. 小学館, 2005, p. 4.
- 18) 平凡社. <http://www.heibonsha.co.jp/corporate/index.html>
(参照 2012-10-21) .
- 19) 木本至. 雑誌で読む戦後史. 新潮社, 1985, p. 276-295.
- 20) 岡留安則. 雑誌を斬る. 教育研究社, 1979, p. 14-19.
- 21) NATIONAL GEOGRAPHIC. 1995, 1 (1). p. 13
- 22) VOGUE NIPPON. 1999, no. 1. p. 23.
- 23) 雑誌新聞総かたろぐ 2012 年版. メディア・リサーチ・センター, 2012. p. 151.
- 24) 講談社 G 2 ネット. <http://g2.kodansha.co.jp/> (参照 2012-10-26) .
- 25) 出版年鑑編集部. 出版年鑑 平成 24 年版. 出版ニュース社, 2012, p. 48.
- 26) 大衆雑誌創刊号セット 1-10. 神奈川県立図書館, 1968,

参考文献

- 1) 雑誌にみる明治百年展出陳目録. 神奈川県立図書館, 1967,
- 2) うらわ美術館・岩波書店編集部. 創刊号のパノラマ. 岩波書店, 2004,
- 3) 印刷博物館. ミリオンセラー誕生へ! -明治・大正の雑誌メディア-. 東京書籍, 2008,
- 4) 「明治・大正・昭和の雑誌創刊号コレクション」所蔵目録. 新潟市立中央図書館, 2011,
- 5) 創刊雑誌を刻む戦後 50 年 展示目録. 東京経済大学図書館, 1995,
- 6) 写真記録 日本世相百年史. 東京日日新聞社/サン写真新聞社, 日本図書センター(復刻), 2009, (日本世相百年史. 1955, の復刻版)
- 7) 読売新聞世論調査部. 10 大ニュースに見る戦後の 40 年. 読売新聞社, 1986,
- 8) 伊藤之雄. 日本の歴史 22. 講談社, 2002,

- 9) 有馬学. 日本の歴史 23. 講談社, 2002,
- 10) 河野康子. 日本の歴史 24. 講談社, 2002,